

皆様こんにちは、山口県教職員団体連合会委員長の島村暢之です。

先日、平成 29 年度 第 6 回親守詩山口大会の表彰式に参加しました。

皆さんは『親守詩 (おやもりうた)』という言葉聞いたことがあるでしょうか？

親守詩は、高橋 史朗氏 (明星大学 特別教授) の「子守唄は親から子へだが、その逆に親への報恩感謝の思いを表現する試みもあってよいのではないか」という思いをきっかけに、2004 年に愛媛県松山市で生まれました。その後、その取り組みが全国に広がり、山口県では平成 23 年に第 1 回山口大会が開催されました。そして、その翌年、第 1 回目の全国大会が山口県下関市で開催され、現在に至っています。

今年度も、定型詩の部、短作文・詩の部、連歌の部にたくさんの素敵な作品が寄せられました。その一部を紹介します。

【定型詩の部】

「お父さん だいすきやけん がんばって」 (小学校 3 年生)

【短作文・詩の部】

「自分が赤子の時から、
ずっとお世話になっているおばあちゃん。
今までお世話ありがとう。
これからは、恩返ししていきます。
例えば、マッサージをしたり、
晩ごはんを作ったり。
今までの恩を倍返しだ。」 (中学校 3 年生)

【連歌の部】

「(子) 謎増える 自由研究 進むほど
(親) 親子で頑張る 夏のイベント」 (中学校 2 年生)



記念講演 講師 松居 和氏

来年度も実施しますので、是非お取組ください。

さて、新聞報道等で御存知のことと思いますが、公立学校教員が懲戒免職処分を受けるという事案が起きました。この件につきましては、県教育委員会から平成 29 年 10 月 18 日付で「不祥事の根絶に向けて」という文書が、現場の教職員一人ひとりに配布されたことと思います。

不祥事が起こる度、子供たち、そして保護者からの信頼を回復するために、「同僚としてできることは何か」や「職場としてできることは何か」等の議論が繰り返されたことと思います。今できることに全力で取り組んでおられること、本当にありがとうございます。しかし、このような現場の教職員の方々の真摯な取組に、この度不祥事を起こした教員が、何食わぬ顔をして加わっていたのかと思うと、非常に強い憤りを感じざるを得ません。

組織で不祥事を根絶するために努力することは必要です。しかし、それ以上に教職員一人ひとりが、教育に関わる職が「聖職」と言われてきた所以を今一度自覚し、行動することが求められています。山口県教連会員の皆様におかれましては、引き続き「子供たちへの教育の充実が第一」とする教育の推進をお願いいたします。

平成 29 年 10 月

山口県教職員団体連合会 (県教連)

委員長 島村 暢之